

「100年前の土地測量図に見る明治の仁保～保田家文書調査説明会」

明治の地租の改正と仁保島村の土地測量

仁保郷土史会 吉岡出雲

仁保島村淵崎・保田家

保田家は、「仁保村志」(仁保村の正史)に登場する旧家であり、保田家が旧仁保島村で担った役割や功績については、保田家10代分家・保田和隆様が作成されたWEBサイト「仁保島村の広島カキ養殖と保田氏の歴史」(<https://neho.com/niho/>)において詳しく記述されています。

測量士・保田保兵衛(1847年～1916年)については、「広島太田川デルタの漁業史」(著者・川上雅之)の水産偉人伝の章の記述を引用して紹介しています。

(保田保兵衛は、)渡辺測量士に学び、その弟子として、土地測量技能を獲得した人である。明治5年地券制が施行されるに当り、仁保島村管内の山林、田畑、屋敷は勿論、海面養殖場図等必要とする測量と製図を明治34年(1901年)迄には全村完成している。(中略)村木寅一(助手)の言によれば、測量人員は、平坂一脚で、遠く、似島、宇品島、金輪島も一つ一つ実測されたと云う。平坂付き一人、ポール持一人、テープ持ち一人と土地熟知の者一人を案内人として計4人によって行われたものであると云う。保田家は、かき養殖が家業であり、技能者として村役場にも関係を持ちつつ、精密な大判の漁場連絡図が幾枚も残っている。明治35年(1902年)、漁業法施行に伴う漁業権免許が平穩に、正確に遂行ができた。この功績は実に偉大である。」

明治34年の実測及び台帳製作者は金井半兵衛、三保折造、保田保兵衛(測量、製図及び台帳整理の主任者)、大浜賢造、池田治平、岡田藤右エ門、葎屋関次郎であり、保田保兵衛亡き後は北川作次郎がこれに替わった。
(括弧書きと下線は吉岡出雲)

明治の地租改正

明治政府は、原則全ての私有地に税を課すこととし、明治6年(1873)7月、地租改正を始めました。

そのために地籍(土地一筆ごとの所有者・地番・地目・境界・面積など)と地価の2つを原則として所有者自身が申請するとされました。しかし、実際は、所有者の申し出に基づき、町村の代表が調査し、書類にまとめて府県に提出されました。

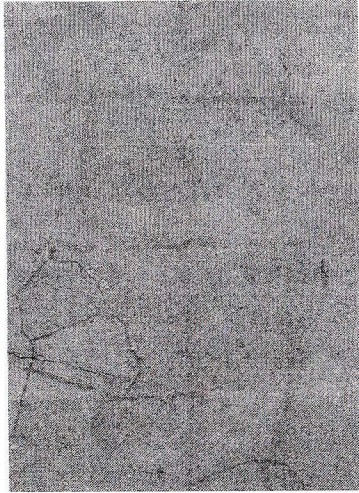
地租改正に伴い作成された図面の種類

区分	範囲	内容
野取図	土地一筆ごとの図面	土地の形状、丈量線、間数、反別など記載
字限図	字単位の図面(旧仁保島村の場合、小字単位)	野取図を接合して作成。「地引絵図」とも言われ、後の「土地台帳附属地図」につながる。
町村限図	一町村単位の区域図面(旧仁保島村の場合、大字単位)	字限図を接合して作成

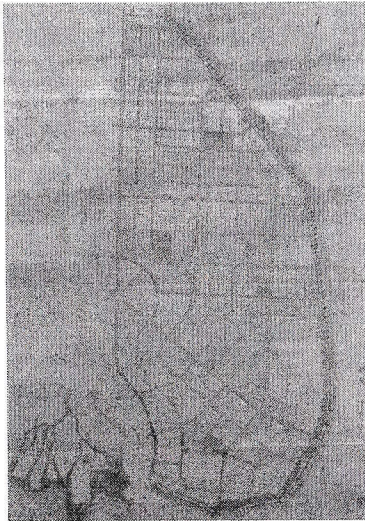
字限図は、もとは地租の徴収のために作成されましたが、後に「土地台帳附属地図」の名称が付され、土地所有の公証事務を所管する法務局(登記所)に保管されてきました。今では、「公図」として知られています。

保田家には、地租改正に伴い作成された旧仁保島村全域に渡る小字限図と大字限図が伝わっています。

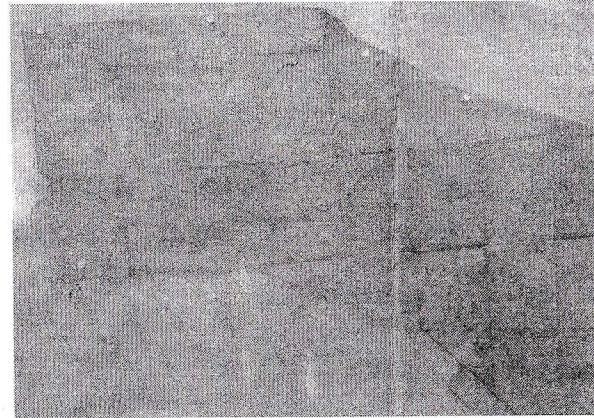
保田家に伝わる文書例



「字限図」小字大町（明治後期）
大字淵崎・小字大町の公図。左側
の字が地方、右側が古城浜

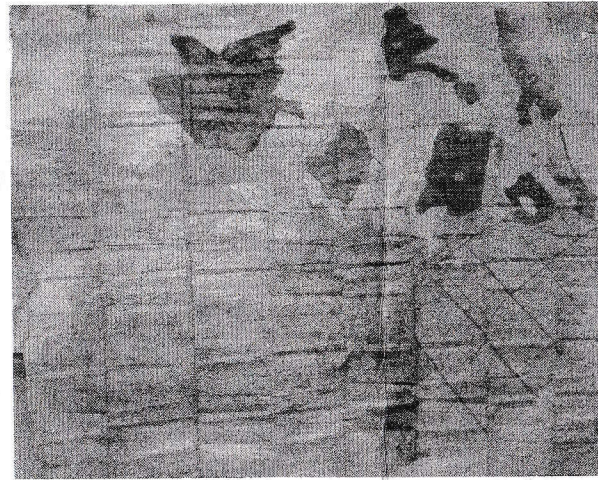


東雲新開の区画整理図（1941年）
現在の広電バス4号線仁保車庫方
面行きのバス路線より東側の東雲
新開の区画整理後の地番図



仁保島村海面入会実測図（1903年）

旧漁業法に基づく区画漁業権の設定に関わる測量図
と推察される。場所は猿候川下流河口付近（現在の
仁保3丁目～4丁目）で、昭和に入り、仁保側、向洋
側ともに地先の埋立が行われ、川幅が狭くなった。。



「字限図」大字本浦（明治後期）

本浦の小字限図を接続して作成された大字限図。
着色は土地利用現況を表すと推察される。

淵崎・本浦の小字・地番対照表

（作成年月不詳）

大字	小字		地番	
	地名	読み仮名	先頭	末尾
淵崎	大町	おおまち	1	183
	地方	じがた	184	365
	伏鱈	ふち	366	574
	柞木	ほうそぎ	575	818
	露霞渡	ろかと	819	1025
	単田	ひとえだ	1026	1250
	黄金山	おうごんざん	1251	1256
本浦	西一ノ割	にしいちのわり	1	165
	宮脇	みやわき	166	216
	西山	にしやま	237	316
	杉山	すぎやま	317	396
	岡サミ	おかさみ	397	470
	大迫	おおさこ	411	681
	古城濱	こじょうはま	682	959
	東山	ひがしやま	960	1040
	井ノ山	いのやま		

（注）「地番」は、大字単位で1番から付されました。大
字・小字と地番の組み合わせが町丁目制導入前の住居
表示でした。